



## 二 状況

請求権財産問題に関する折衝要領に関する件

(二七・七・二二アジア二課)

(1) 韓国側は請求権財産問題に關しわが方の予想を絶した関心を持つて居り、特に請求権問題に對してわが方が執つて來た從來の立場については韓国の親日分子もこれを意外とし且つ日本への態度に失望を感じてゐる実情であることが判明した。韓国としては在鮮財産に關してこの際はつきりと日本の請求権を放棄せしめるにより安堵を得て置きたいという心境にある。

(2) 他方ガエスティング・ディクリーの効力問題に關する限り、米国の與論も圧倒的に韓国側を支持して居り、特に電大を平和条約をひき得た日本が聯邦に對しては苛酷な態度に出でいるとする点及び日本が對韓請求を為しているのは、韓国が支

払い能力ないことを見越しで結局米国が韓国に援助する資金の中から財産返還の実を得ることを狙つてゐるものであるといふ点をもつてわが國を攻撃してゐる。

本件論争に關する韓国側の立場は先般の米国國務省の對韓國覺書により支持強化されてゐる。

(二)しかし、先般の会談におけるヴァエスティング・デイクリーに關する論争により、韓国側は一方的に自己の請求権のみを主張しても日本側が絶対にこれに応じ得ない点を深く印象させられた意味においては、右論争は一應わが方作戦の目的を達していると言ひ得るが、これ以上本論争の蒸返しを繼續することは、前記の如き諸情勢より見てもはや有利としない限界に來ていると見得る。

固他方前記の米国國務省覺書において、日本側の在韓財産の放棄の事實を日韓間の交渉に當つて考慮に入れるべき旨の示唆

ありたることにより、韓国側としても一方的に自己の対日請求権のみを主張することは國際的にも支持を得難い立場にあることを覺つて来たものと思われる。

右の如き諸考慮より、今後の請求権交渉の方法として左記の如き諸方式が考えられるが、何れの方針を探るにせよ國際與論に対する反響も考え方め米国側に能く交渉方式に關し事前に通報し、又交渉の途中において適宜米国側の斡旋を求める必要を生じよう。

## 請求権問題対処方式

## 第一案

## 第二案

## 第三案

## 第四案

## 第五案

棄全閑右  
す体係第  
ると財四  
・し産案  
てをに  
相含、  
百め北  
放、鮮  
かりわ  
ら、が  
な特方  
おにに  
さ北お  
ら鮮い  
ではて  
あ第、  
る四第  
・条四  
・案  
項と  
と同  
関様  
係の  
が反  
を対  
いあ  
れ又す相当得ケニ干ルし相無在  
進北る當方ベクの。エ百償韓  
い鮮、固かキスセモケク放護國  
・國、いら項とブの、セ棄渡有  
様、案具目シはヌサシ財  
に、を体にてヨ認たシる、產  
は、根的つ認ナめるヨ。他は  
船、示にキメル若ナ但は、  
國お来て唆相  
内い決來す百  
的でにるる放  
には残かこ棄  
も、すもとと  
反國事しにわ  
対内にれよが  
多補はなつ方  
か償反いて、  
るの対、先ア  
べ問すし方ル  
し難ベかはフ  
、を立しあア  
生、北る持  
起わ鮮い出  
すが國はし  
る方係乗を  
外にをつ示  
を當來に財とを  
約り、放產とい  
さ考請棄をも事  
し慮求し體にを  
めす權た國、宣  
るべ交事の明  
・・涉はた大す  
事に將めをる

万萬子のの輜朝  
法四時交み鮮  
理条、期涉、の  
論(リ)とまは請南  
を頃りで南求北  
主のあ持北權分  
張わえち統全裂  
しがすこ一般に  
招又がは点又價  
く右方相が米國  
不法は百あ國の  
利理一放るに危  
が論方棄、對惧  
あ撤的にしす心  
る回に向かるを  
・・にバウしわ去  
つシ方、がり  
・・イ式と立、  
・・ブでの場逆  
國のあ方を宣  
内立る式明伝  
か場がは朗の  
らに、寒化種  
反た今質すを  
対ち後的る封  
を、わに利じ  
渉めの決こ實に原  
延請舶基了能  
すて衷をの情し則  
期求が本まう  
する解情求場審て論  
こ決審め合査、は  
と方査ず、を各、  
と法の全特す項棚  
すを後項にる目上  
る交改日解、のけ

先わ  
方が  
は方  
乗が  
つ法  
て理  
來論  
まを  
い明  
・白  
に  
撤  
回  
し  
しな  
けれ  
ば  
定決本たの第  
のに件が基一  
状入請つ疎次  
態る求てを会  
がこ族、請談  
つと間先求て  
づは頃方權、  
く先をの間先  
こ方棚方頃方  
とは上針のは  
に容げに解日  
も認し変決權  
をして化に新  
るま他が置關  
・いのない係  
懸いたの  
不案限、設  
安解りし定

第六案

第七案

法当スイにのすきがケエ で南他先きがケエ  
処事にべ闇項交も方トク 延北のすも方トク  
置国ヨリ係目渉のよスセ ば統項交のよスセ  
にのるト者は妥にりとブ ナー目渉にりとブ  
委立接・間ヶ結つ支しシ のは妥つ支しシ  
ね法衝ベの1しい払てヨ 時將結い払てヨ  
る、と1ブス、てう、ナ 期來してう、ナ  
・司両シラ毎他先ベわル ま、、ベわル

一對可を認 なこさ當テ百 こ あが実  
方田能認めしいとす事イ放の る、質  
的請性めらか。に、者ジ棄方 。との  
に求もられし よ又のグに式 しりに  
わは先れる実 り、解・導は かあは  
が、すて可質 国相积デキ 実 しえ原  
方実絶も能的 内百のイ得、質 将ず則  
が現無實性に 与放差クル、的 来、と  
とのを質もは 論棄のリ方に に國し  
ら叫る的、わ をを解、式は 間内で  
れ能にに又が 制明決ので、 相をの  
る性比可形方 戰示を効あ 原の制  
立がしぬ式の す的表力る 則  
場多、を的対 るに面にが と  
にく體回に韓 こ言に対、し  
立從國收請請 とわ持すグて 残を棄  
つつ側す求求 がなちるニの すいに  
てのる權を 少い出両ス相 効を  
がる